

「自動車をつくる工業」

単元のねらい

工業生産に関心を持ち、工業地域の分布、各種の工業生産の特色などを調べ、国民生活と工業との関係や工業の特色などについて考え、理解することができる。

いつ学習するの？

単元の指導計画

●生活をとりにくく工業製品
●自動車をつくる工場の見学
●自動車の部品をつくる工場
●完成車の輸送
●これからの自動車生産

私たちの生活の中に、ユニバーサルデザイン(UD)化された(誰にとっても役立つことを意識した)工業製品が増えていることに関心を持ち、その視点で身の回りのものを見ていくようにする。

どんな活動をするの？

実施時間：約15分

- 単元の導入で、生活に身近な工業製品の例として、昔と今のはさみの画像を比較させる。
- 気づいたことをワークシートに書き出し、発表させる。

今のはさみは、ずいぶん軽くなって、誰にとっても扱いやすくなっているね。



- 児童の意見を整理し、次のような視点を意識させる。
 - ・安全性への配慮や利便性の高さ
 - ⇒「誰にとっても役立つ」という観点での変化

- 気づいたことをもとに、自分がつくってみたいはさみを考えさせ、発表させてもよい。
工夫をかかせるためのワークシートもWebに掲載しています。
- ワークシートを通して考えたことは、自動車の生産にも生かされていることを説明する。

自動車工場の見学の際に、UDの視点で工夫されていることも質問してみましょう。



★昔と今のはさみを比べてみよう！

★昔と今のはさみを比べて変わったところを見つけ、○でかきましょう。

★鉄製 昔のはさみ
★量は、約250g

フルカバー
回転式ハサミ
左利き用
ステンレス製 フツボコート
★重さは、約250g

★今のはさみの量は、どれも30～40g
★重さと力を別けて調べてみる。

★どんなところが変わってきたのかを、まとめてみましょう。

はさみの写真提供：長谷川刃物株式会社
*ワークシートや指導案をWebからダウンロードすることができます。

キャリア教育の

子どもたちに気づかせたい宝

- 「誰にとっても役立つ」という視点で製品が作られている、私たちも利用している。
- 人々の工夫により、生活が便利になってきたが、自分たちも未来に何かを残す主体になることができる。

もっと知りたい! 職業のこと

— はさみの製造 —
長谷川刃物株式会社
大塚 雅之さん



売れる製品を作るには、もちろん、誰がその製品を必要としているかが重要になってきます。お客さんの年代、性別、切るものの大きさなど、いろいろ調査しなくてははいけません。それから、ユニバーサルデザインなど、誰にとっても役立つ製品を作るためには、自分自身が使い手の立場に立って考えることが大切だと思います。

▶ 続きはWebで。

ここで使用するワークシートは、Webに掲載しています。

スマイル・プラネット

検索